



より緊密な経済パートナーシップに向けた アジア欧州会議(ASEM)タスクフォース



2003年9月開催の第3回ASEMタスクフォース東京会議(東京三菱銀行日本橋別館12Fチャートルーム)にて。
前方左より、共同議長である行天IIMA理事長(日本)、アルフレド・パストール氏(スペイン)、
メンバーのサコン・イル氏(韓国)、右奥は欧州委員会オブザーバーのミハエル・ライテラー氏。

国際通貨研究所は、アジア・欧州間のより緊密な経済パートナーシップに向けたアジア欧州会議(ASEM)タスクフォースのアジア側事務局として、2003年初のタスクフォース発足当初よりその活動・運営に携わっている。同様に、スペインのエルカノ国際戦略研究所(http://www.realinstitutoelcano.org/default_eng.asp)が欧州側の事務局を勤めており、互いにタスクフォースの活動の調整・推進役として協働している。

国際通貨研究所は、1995年の設立以来一貫して、最も重要な課題の一つとして、アジア域内の地域金融協力のテーマについて研究を続けている。今回、当タスクフォースへの参画は、今までのこの分野における研究成果をASEMの枠組みに還元し、アジア域内のみならずアジア・欧州間の関係強化に貢献できる絶好の機会である。また、この活動を通じて日本の外交政策にとっても重要な役割を果たすことが期待されている。

本ウェブサイトでは、同タスクフォースの活動・成果と、これまでのASEMの発展過程における有用な関連情報を紹介する。

より緊密な経済パートナーシップに向けたASEMタスクフォース

ASEMタスクフォースは2002年の**コペンハーゲン・サミット**で設立が合意され、2004年10月にハノイにて開催予定の第5回ASEMサミットに提出するための具体的提言に関する最終報告書を作成する旨のマンデートが与えられた。これを受けて、2003年5月マドリッドにおいて初会合が開催された。報告書は、ASEMの経済分野に関するものであり、**ASEMの枠組みでの活動**としてASEMができること、またどのようにその効果をもたらすことができるのかについて行動指向的な提言が求められている。2003年7月に開催された一連のASEM財務大臣、外相、経済閣僚会議にその**中間報告書**が提出された。

ASEMタスクフォースは、10名の**アジア側メンバー**および7名の**欧州側メンバー**で構成されている。全てのASEMメンバー国がタスク

オースに代表を派遣しているわけではないため、タスクフォースメンバーは国家の代表というよりも、メンバーが個人の資格で参加、貢献するものと解されている。



2004年3月開催の第4回ASEMタスクフォースバンコク会議(タイ国際金融公社)にて。後方左より、サコン・イル氏(韓国)、ゲルト・フォクト氏(ドイツ)、ヘニング・クリストファーセン氏(デンマーク)、ジャンニ・デ・ミケリス氏(イタリア)、ノルディン・ソピー氏(マレーシア)、アルフレド・パストール氏(スペイン)、マグヌス・ブロムストロム氏(スウェーデン)、前方左より、パン・エン・フォン氏(シンガポール)、ハージ・イスマイル・ハージ・デュラン氏(ブルネイ)、行天IIMA理事長(日本)、ナロンチャイ・アクラサネ氏(タイ)、メリト・サラザール氏(フィリピン)、チャン・ユンリン氏(中国)。

国際通貨研究所では、孕石総務部長及び福居経済調査部次長(肩書きは当時)が、スペインのエルカノ国際戦略研究所国際経済上級アナリスト、ポール・イズベル氏と共に事務局の代表を勤めており、ASEMタスクフォースの報告者としての責務を担っている。



2004年5月開催の第5回ASEMタスクフォースバルセロナ会議(Cass Asia)にて。アジア側事務局・福居信幸IIMA経済調査部次長(中央左)、欧州側事務局・イズベル氏(中央右)。

第5回ASEMタスクフォース会議は、2004年5月16日から17日にかけて、バルセロナのCasa Asia

(<http://www.casaasia.org/index.html>) にて行なわれた。これまでに、バンコク会議(2004年3月11日~12日)、フランクフルト会議(2003年11月22日)、東京会議(2003年9月9日)、マドリッド会議(2003年5月6日)が開催されている。

タスクフォースでは、第5回ASEMハノイ・サミット*においてASEM首脳に提出する提案について協議を重ねてきたが、取り纏められた提案はタスクフォース共同議長(行天IIIMA理事長とゲルト・フォクト氏**)により、2004年10月に開催されたハノイ・サミットにて、正式に提案として提出された。

*2004年7月及び9月にそれぞれ開催予定であった財務大臣、経済閣僚会議は、新規参加国問題で一時中止になった。

**アルフレド・パストール氏が欧州側の議長として取り纏めにあたってきたが、実際の会合ではゲルト・フォクト氏がパストール氏の代理として共同議長を務めた。



2004年5月開催の第5回ASEMタスクフォースバルセロナ会議(Casa Asia)にて。

最終報告書では、(1) 通貨・金融問題、(2) 貿易・投資問題、(3) ビジネス界との交流問題、(4) ASEM の機構化問題 の各分野において、具体的提案がなされている。

アジア欧州会議(ASEM)

アジア欧州会議(ASEM)は、アジアと欧州が、経済・政治・文化のいわゆる3本柱(three pillars)の課題に関し、インフォーマルな対話と協力のプロセスを通じてより緊密な協力関係を樹立することを目的としている。1996年3月、バンコク

(<http://asem.inter.net.th/index.html>)での発足以来、1998年4月ロンドン会議、2000年10月のソウル会議

(<http://www.asem3.go.kr/english>)、2002年9月のコペンハーゲン会議の開催を経て、2004年10月にハノイで会合が開催された。



サミットのみならず、年間を通じて、様々なフォーラムが開催されている。フォーラムは、多くの課題について、相互理解と協力関係を深めるため、首脳や閣僚レベルの会合から高級実務者会合(SOM)での活動まで幅広い層に及んでいる。

ASEMメンバー国は、アジア側では、ブルネイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、シンガポール、タイ、ベトナム(ASEAN加盟国)と中国、日本、韓国であり、欧州側では、欧州連合の先行加盟国15カ国と欧州委員会となっている。今般のサミットでは、欧州側でのEU拡大に伴って新たなメンバーの加盟が認められた。

ASEMIに関する詳細情報については、
外務省 (<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asem/>) および、欧州委員会 (http://europa.eu.int/comm/external_relations/asem/intro/index.htm) の各ホームページを参照されたい。



ASEMの経済分野における主要課題

ASEMの経済分野の柱は、貿易・投資フローの促進を含めた幅広い分野での経済問題におけるさらなる相互協力を取りあげている。この目的のために、数多くのイニシアティブが立ち上げられた。

1997年9月、経済閣僚による初会合においては、次の方針に取り組むことが合意された。

- 市場経済と必要な改革への共通のコミットメント
- 成長の牽引者であるビジネス部門と政府との緊密な協力と対話
- 無差別的自由化、透明性の確保、開かれた地域主義
- WTO等の適用可能な国際ルールとの整合性確保とその遵守
- アジア欧州域内及び両地域間の経済的多様性に配慮した相互尊重とイコールパートナーシップ

ASEMの経済分野における根幹課題の進展に関する詳細情報は、蔵相・経済閣僚・外相会議の声明を参照。

■ 財務大臣会議

- 第5回財務大臣会議 インドネシア・バリ(2003年7月)
- 第4回財務大臣会議 デンマーク・コペンハーゲン (2002年7月)
- 第3回財務大臣会議 日本・神戸 (2001年1月)
- 第2回財務大臣会議 ドイツ・フランクフルト (1999年1月)
- 第1回財務大臣会議 タイ・バンコク (1997年9月)

■ 経済閣僚会議

- 第5回経済閣僚会議 中国・大連 (2003年7月)
- 第4回経済閣僚会議 デンマーク・コペンハーゲン (2002年9月)
- 第3回経済閣僚会議 ベトナム・ハノイ (2001年9月)
- 第2回経済閣僚会議 ドイツ・ベルリン (1999年10月)
- 第1回経済閣僚会議 日本・幕張 (1997年9月)

■ 外相会議

- 第6回外相会議 アイルランド・キルデア (2004年4月)

- 第5回外相会議 インドネシア・バリ（2003年7月）
- 第4回外相会議 スペイン・マドリッド（2002年6月）
- 第3回外相会議 中国・北京（2001年5月）
- 第2回外相会議 ドイツ・ベルリン（1999年3月）
- 第1回外相会議 シンガポール（1997年2月）